

学習指導に関する調査研究  
～新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導と学習評価についての調査研究～

1 学習指導要領改訂の基本的方針

(1) 育成を目指す資質・能力の明確化

三つの柱で再構成

ア「何を理解しているか、何ができるか」

（生きて働く「知識・技能」の習得）

イ「理解していること・できることをどう使うか」

（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）

ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」

（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

① 授業の方法や技術の改善のみを意図するのではなく、生徒に目指す資質・能力を育むためのものであること。

② 各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質を向上させることを主眼とするものであること。

③ 1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。

④ 深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。

⑤ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、それを身に付けさせるために、生徒の学びを深めたり主体性を引き出したりといった工夫を重ねながら、確実な習得を図ることを重視すること。

(3) 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のために教科等横断的な学習を充実することや、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うこと。

○ 三つの側面からの捉え

① 教育内容の組織的配列

各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

② P D C A サイクルの効果的な運用（編成・実施・評価・改善）

教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のP D C Aサイクルを確立すること。

③ 様々なリソースの組み合わせ

教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

## 2 家庭科改訂の要点

### (1) 家庭科、技術・家庭科家庭分野における目標(小・中・高)

実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見いだして課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成する。

- ① 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ② 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を通して生活の課題を解決する力を養う。
- ③ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

※ ①として「知識及び技能」、②として「思考力、判断力、表現力等」、③として「学びに向かう力、人間性等」の目標とした。

### (2) 家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における資質・能力と目標との関連を明示

育成を目指す3つの資質・能力	趣 旨
知識・技能	生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的・科学的な知識を獲得・理解し、技能を習得する。
思考力・判断力・表現力等	生活の中から問題を見出して課題を解決し、そのプロセスや結果を表現する。
学びに向かう力・人間性	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活や社会の実現に向けて工夫し、改善する。

### (3) 家庭科、技術・家庭科における「見方・考え方」・領域横断的に貫く四つの視点の明示

家庭科、技術・家庭科家庭分野では、人の生活の営みに係る多様な生活事象を学習対象としている。生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造するために、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、**協力・協働**、**健康・快適・安全**、**生活文化の継承・創造**、**持続可能な社会の構築**等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」を「生活の営みに係る見方・考え方」として整理することができる。

学習を貫く四つの視点と内容等との関連による重点の置き方の違い

	家族・家庭生活	衣食住の生活	消費生活・環境等
協力・協働	◎	○	○
健康・快適・安全	○	◎	○
生活文化の継承・創造	○	◎	○
持続可能な社会の構築	○	○	◎

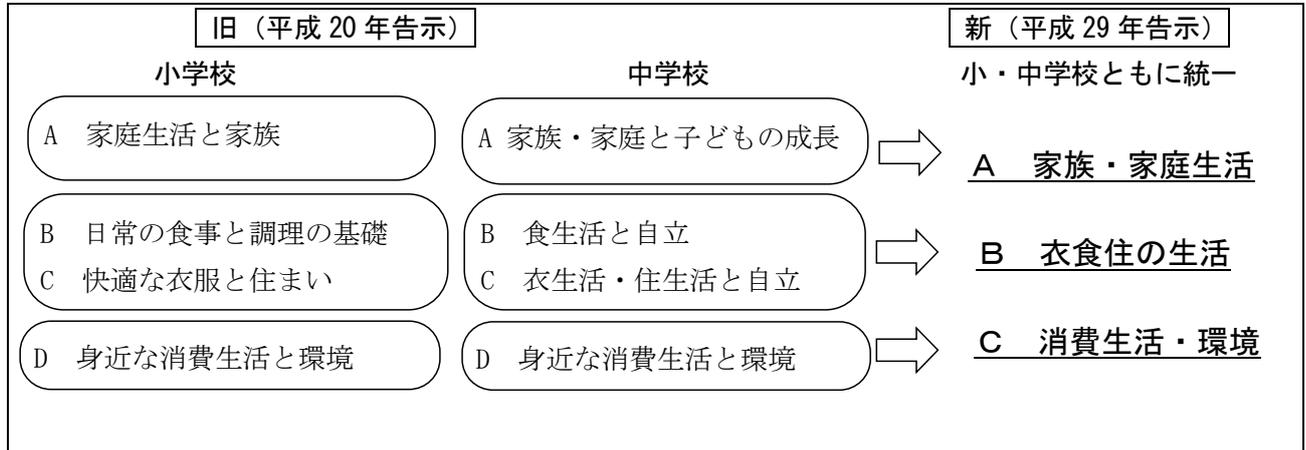
(4) 小・中・高等学校の教育内容の見直し

社会を担う子供たちには、グローバル化、少子高齢化、持続可能な社会の構築等の現代的な課題を適切に解決する力が求められることから、家庭科、技術・家庭科においては、学校種ごとの見直しが図られた。

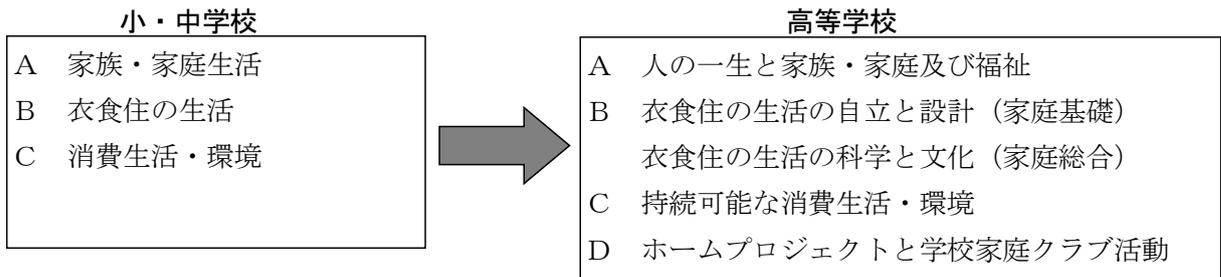
(5) 小・中・高等学校の系統性の明確化

ア 小・中学校の内容構成の新旧比較

小学校・中学校ともに、三つの内容とし系統性の明確化を図る。



イ 小・中・高等学校の内容について



ウ 小・中・高等学校の系統性を重視した指導の充実

高等学校 人間の発達と生涯を見通した生活の営みを総合的に捉える

→生活に関わる事象を科学的に理解する。

家庭や地域の生活課題を主体的に解決し、充実向上を図る。

**時間軸** 小学校→自分の成長を自覚する

中学校→生活の自立を考えこれからの生活を展望する

高等学校→生涯を見通す

**空間軸** 自己と家庭、家庭と社会のつながりを考える

小→中→高で広がる

食生活	小→ 一食分の食事
	中→ 一日分の食事
	高→ 各ライフステージの食事

保育	中→ 子どもが育つことを学ぶ
	高→ 子どもを育てることを学ぶ

エ 小学校・中学校における「A 家族・家庭生活」の内容構成

小学校	中学校
(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長と自覚	(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長と家庭生活のとの関わり

<p>家庭生活と家族の大切さ、 家族との協力</p> <p>(2) 家庭生活と仕事</p> <p>ア 家庭の仕事と生活時間 イ 家庭の仕事の計画と工夫</p> <p>(3) 家庭や地域の人々との関わり</p> <p>ア(ア) 家族との触れ合いや団らん イ(イ) 地域の人々との関わり イ 家族や地域の人々との関わり の工夫</p> <p>(4) 家族・家庭生活についての課題と実践</p> <p>ア 日常生活についての課題と計画、 実践、評価</p> <p style="text-align: center;"><b>新 設</b></p>	<p>家族・家庭の基本的な機能、 家族や地域の人々との協力・協働</p> <p>(2) 幼児の生活と家族</p> <p>ア(ア) 幼児の発達と生活の特徴、家族の役割 イ(イ) 幼児の遊びの意義、幼児の関わり イ 幼児との関わり の工夫</p> <p>(3) 家族・家庭や地域との関わり</p> <p>ア(ア) 家族の協力と家族関係 イ(イ) 家庭生活と地域との関わり、 高齢者との関わり 方 イ 家庭生活をよりよくする方法及び地域の 人々と協働する方法 の工夫</p> <p>(4) 家族・家庭生活についての課題と実践</p> <p>ア 家族、幼児の生活又は地域の生活について の課題と計画、実践、評価</p>
---	---

オ 小学校・中学校における「B 衣食住の生活」食生活の内容構成

小学校	中学校
<p>(1) 食事の役割</p> <p>ア 食事の役割と食事の大切さ、 日常の食事の仕方 イ 楽しく食べるための食事の仕方の工夫</p> <p>(2) 調理の基礎</p> <p>ア(ア) 材料の分量や手順、調理計画 イ(イ) 用具や食器の安全で衛生的な取扱い、 加熱用調理器具の安全な取扱い ウ(ウ) 材料に応じた洗い方、調理に適した切り 方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片 付け エ(エ) 材料に適したゆで方、いため方 オ(オ) 伝統的な日常食の米飯及びみそ汁の 調理の仕方 イ おいしく食べるための調理計画及び調理 の工夫</p> <p>(3) 栄養を考えた食事</p> <p>ア(ア) 身体に必要な栄養素の種類と働き イ(イ) 食品の栄養的特徴と組合せ ウ(ウ) 献立を構成する要素、献立作成の方法 イ 1食分の献立の工夫</p>	<p>(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴</p> <p>ア(ア) 食事が果たす役割 イ(イ) 中学生の栄養の特徴、健康によい食習慣 イ 健康によい食習慣の工夫</p> <p>(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事</p> <p>ア(ア) 栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質 イ(イ) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量 献立作成の方法 イ 中学生の1日分の献立の工夫</p> <p>(3) 日常食の調理と地域の食生活</p> <p>ア(ア) 用途に応じた食品の選択 イ(イ) 食品や調理用具等の安全と衛生に留意 した管理 ウ(ウ) 材料に適した加熱調理の仕方、 基礎的な日常食の調理 エ(エ) 地域の食文化、地域の食材を用いた和食 の調理 イ 日常の1食分のための食品の選択と調理計 画及び調理の工夫</p> <p>(7) 衣食住の生活についての課題と実践</p> <p>ア 食生活についての課題と計画、実践、評価</p>

カ 小学校・中学校における「B 衣食住の生活」衣生活の内容構成

小学校	中学校
<p>(4) 衣服の着用と手入れ</p> <p>ア(ア) 衣服の主な働き、日常着の快適な着方</p> <p>イ(イ) 日常着の手入れ、ボタン付け及び洗濯の仕方</p> <p>エ 日常着の快適な着方や手入れの工夫</p> <p>(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作</p> <p>ア(ア) 製作に必要な材料や手順、製作計画</p> <p>イ(イ) 手縫いやミシン縫いによる縫い方、用具の安全な取扱い</p> <p>エ 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作の工夫</p>	<p>(4) 衣服の選択と手入れ</p> <p>ア(ア) 衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用や個性を生かす着用、衣服の選択</p> <p>イ(イ) 衣服の計画的な活用、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ</p> <p>エ 日常着の選択や手入れの工夫</p> <p>(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作</p> <p>ア 製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱い</p> <p>イ 生活を豊かにするための資源や環境に配慮した布を用いた製作計画及び製作の工夫</p> <p>(7) 衣食住の生活についての課題と実践</p> <p>ア 衣生活についての課題と計画、実践、評価</p>

キ 小学校・中学校における「B 衣食住の生活」住生活の内容構成

小学校	中学校
<p>(6) 快適な住まい方の工夫</p> <p>ア(ア) 住まいの主な働き、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方</p> <p>イ(イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方</p> <p>エ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方の工夫</p>	<p>(6) 住居の機能と安全な住まい方</p> <p>ア(ア) 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能</p> <p>イ(イ) 家族の安全を考えた住空間の整え方</p> <p>エ 家族の安全を考えた住空間の整え方の工夫</p> <p>(7) 衣食住の生活についての課題と実践</p> <p>ア 住生活についての課題と計画、実践、評価</p>

ク 小学校・中学校における「C 消費生活・環境」の内容構成

小学校	中学校
<p>(1) 物や金銭の使い方と買物</p> <p>ア(ア) 買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さ、計画的な使い方</p> <p>イ(イ) 身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理</p> <p>エ 身近な物の選び方、買い方の工夫</p> <p>(2) 環境に配慮した生活</p> <p>ア 身近な環境との関わり、物の使い方</p> <p>イ 環境に配慮した物の使い方の工夫</p>	<p>(1) 金銭の管理と購入</p> <p>ア(ア) 購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理</p> <p>イ(イ) 売買契約の仕組み、消費者被害、物資サービスの選択に必要な情報の収集・整理</p> <p>エ 情報を活用した物資・サービスの購入の工夫</p> <p>(2) 消費者の権利と責任</p> <p>ア 消費者の基本的な権利と責任</p>

	消費生活が環境や社会に及ぼす影響 イ 自立した消費者としての消費行動の工夫 (3) 消費生活・環境についての課題と実践 ア 環境に配慮した消費生活についての課題と計画、実践、評価 <b>新設</b>
--	--

ケ 小学校・中学校における課題解決学習「生活の課題と実践」について

小学校	中学校
<p>A 家族・家庭生活 (4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 日常生活についての課題と計画、実践、評価 <b>新設</b></p>	<p>A 家族・家庭生活 (4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 家族・幼児の生活又は地域の生活についての課題と計画、実践、評価</p> <p>B 衣食住の生活 (7) 衣食住の生活についての課題と実践 ア 食生活、衣生活、住生活についての課題と計画、実践、評価</p> <p>C 消費生活・環境 (3) 消費生活・環境についての課題と実践 ア 環境に配慮した消費生活についての課題と計画、実践、評価 <b>新設</b></p>

3 高等学校家庭科（共通教科）改訂のポイント

- 小・中・高等学校の系統性を踏まえ、「家庭基礎」、「家庭総合」とともに、内容構成をA「家庭・家族及び福祉」、B「衣食住」、C「消費生活・環境」に、D「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を加えた四つに整理
- 少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進等に対応し、生涯を見通した生活設計、乳幼児や高齢者をはじめ地域社会の人々との関わり、衣食住に関わる生活文化の伝承・創造、契約の重要性や消費者保護に関する内容を充実
- 家庭や地域及び社会における生活課題を解決する力、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画し、家庭や地域の生活を主体的に創造しようと実践的な態度を育成する指導を充実

(1) 改訂の基本的な考え方

- 実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を目指すとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善が図られるよう、目標及び内容を改善・充実

現 行	改 訂
家庭基礎（2単位）、家庭総合（4単位）、及び生活デザイン（4単位）のうち1科目を必修	家庭基礎（2単位）、家庭総合（4単位）のうち1科目を必修

(2) 学習内容の改善・充実

① 「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」

- ・生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫について明記。
- ・「家庭基礎」に、家族・家庭に関する法規について触れることを明記。
- ・子育て支援についての理解や乳幼児と関わるための技能について明記。
- ・高齢者の尊厳と介護についての理解（認知症含む）や生活支援に関する技能について充実。
- ・自助、共助及び公助の重要性について理解することを明記

② 「B 衣食住の生活の自立と設計（家庭基礎）」「B 衣食住の生活の科学と文化（家庭総合）」

- ・和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関する内容の充実。
- ・防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境の工夫について明記。

③ 「C 持続可能な消費生活・環境」

- ・「家庭基礎」に家庭管理について理解することを明記。
- ・不測の事態に備えたリスク管理に関する内容の充実。
- ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解することを明記。

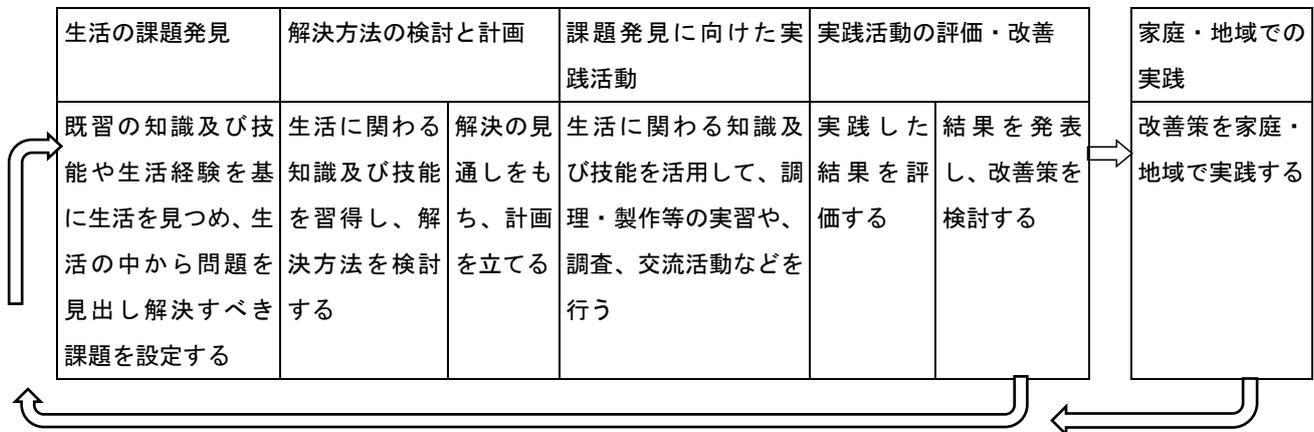
④ 「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」

- ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動については、引き続き充実。

(3) 学習指導の改善・充実

- ① 科目の導入として「生涯の生活設計」の項目を新設し、AからCまでの内容と関連付けるとともに、まとめとして指導することを明記。
- ② 現在を起点に将来を見通したり、自己や家庭を起点に地域や社会へ視野を広げたりすることができるよう指導することを明記。**時間軸**・**空間軸**の二つの視点
- ③ **学習過程を踏まえた改善** 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して解決策を構想し実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ることを明記。

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）の学習過程の参考例



4 高等学校 共通教科「家庭」について

(1) 家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ② 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- ③ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

※ ①として「知識及び技能」、②として「思考力、判断力、表現力等」、③として「学びに向かう力、人間性等」の目標とした。

## (2) 育成を目指す資質・能力

### ① 「知識・技能」 自立した生活者に必要な家族、家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解と技能

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

- 家族・家庭についての理解
- 乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等についての理解と技能
- 生涯の生活設計についての理解
- 各ライフステージに対応した衣食住についての理解と技能
- 生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての理解と技能

### ② 「思考力・判断力・表現力等」 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、生涯を見通して解決する力

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

- 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出し、課題を解決する力
- 実習や観察・実験、調査、交流活動等の結果等について、考察したことを科学的根拠や理由を明確にして論理的に表現する力
- 他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善する力

### ③ 「学びに向かう力・人間性等」 相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

- 男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする態度
- 様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画しようとする態度
- 生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度
- 日本の生活文化を継承・創造しようとする態度
- 自己のライフスタイルの実現に向けて将来の家庭生活や職業生活を見通して学習に取り組もうとする態度

(3) 「生活の営みに係る見方・考え方」

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、**協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等**の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

(4) 共通教科「家庭基礎」、「家庭総合」の内容

「家庭基礎」(2単位)	「家庭総合」(4単位)
<p><b>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</b></p> <p>(1) 生涯の生活設計 ・生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫</p> <p>(2) 青年期の自立と家族・家庭 ・家族・家庭の法規に関する法規に触れることを明記</p> <p>(3) 子供の生活と保育 ・子育て支援についての理解 ・乳幼児と関わるための基礎的な技能</p> <p>(4) 高齢期の生活と福祉 ・高齢者の尊厳と介護についての理解(認知症含む) ・高齢者の生活支援に関する基礎的な技能についての内容の充実</p> <p>(5) 共生社会と福祉 ・自助・共助及び公助の重要性についての理解</p> <p><b>B 衣食住の生活の自立と設計</b></p> <p>・和食、和服及び和室など日本の伝統的な生活文化の継承・創造についての理解</p> <p>(1) 食生活と健康</p> <p>(2) 衣生活と健康</p> <p>(3) 住生活と住環境 ・防災などの安全や環境に配慮した住生活の工夫</p> <p><b>C 持続可能な消費生活・環境</b></p>	<p><b>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</b></p> <p>(1) 生涯の生活設計 ・生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫</p> <p>(2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会</p> <p>(3) 子供との関わりと保育・福祉 ・子供の遊びと文化についての理解 ・子育て支援についての理解と工夫 ・子供の発達に応じた適切な関わり方の工夫</p> <p>(4) 高齢者との関わりと福祉 ・高齢者の尊厳と介護についての理解(認知症含む) ・高齢者の心身の状況に応じた生活支援に関する技能についての内容の充実</p> <p>(5) 共生社会と福祉 ・自助・共助及び公助の重要性についての理解</p> <p><b>B 衣食住の生活の科学と文化</b></p> <p>・日本と世界の衣食住の文化についての理解 ・和食、和服及び和室など日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関する内容の充実</p> <p>(1) 食生活の科学と文化</p> <p>(2) 衣生活の科学と文化</p> <p>(3) 住生活の科学と文化 ・防災などの安全や環境に配慮した住生活と町づくりの考察、工夫</p> <p><b>C 持続可能な消費生活・環境</b></p>

<p>(1) 生活における経済の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家計管理についての理解</li> <li>・リスクを想定し不慮に事態に備えた対応についての理解</li> </ul> <p>(2) 消費行動と意思決</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性についての理解</li> <li>・消費者保護の仕組みについての理解</li> </ul> <p>(3) 持続可能なライフスタイルと環境</p> <p><b>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</b></p>	<p>(1) 生活における経済の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不測の事態に備えたリスク管理に関する内容の充実</li> </ul> <p>(2) 消費行動と意思決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性についての理解</li> <li>・消費者保護の仕組みについての理解</li> </ul> <p>(3) 持続可能なライフスタイルと環境</p> <p><b>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</b></p>
---	--

(5) 共通教科「家庭基礎」、「家庭総合」の新旧対照表

ア 「家庭基礎」の新旧対照表

- 小・中・高等学校の系統性を踏まえ、「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」、「B 衣食住の生活の自立と設計」「C 持続可能な消費生活・環境」「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の四つに整理
- 生涯の生活設計の学習を科目の導入としても学習することで、現在を起点に将来を見通し、ライフスタイルに応じた衣食住の生活に関わる理解や技能の定着や、生涯にわたってこれらの力を活用した課題解決を目指し、改善を図った。

家庭基礎 (2単位)	
新	現行
<p><b>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</b></p> <p>(1) 生涯の生活設計</p> <p>(2) 青年期の自立と家族・家庭</p> <p>(3) 子供の生活と保育</p> <p>(4) 高齢期の生活と福祉</p> <p>(5) 共生社会と福祉</p> <p><b>B 衣食住の生活の自立と設計</b></p> <p>(1) 食生活と健康</p> <p>(2) 衣生活と健康</p> <p>(3) 住生活と住環境</p> <p><b>C 持続可能な消費生活・環境</b></p> <p>(1) 生活における経済の計画</p> <p>(2) 消費行動と意思決</p> <p>(3) 持続可能なライフスタイルと環境</p> <p><b>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</b></p>	<p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉</p> <p>ア 青年期の自立と家族・家庭</p> <p>イ 子どもの発達と保育</p> <p>ウ 高齢期の生活</p> <p>エ 共生社会と福祉</p> <p>(2) 生活の自立及び消費と環境</p> <p>ア 食事と健康</p> <p>イ 被服管理と着装</p> <p>ウ 住居と住生活</p> <p>エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画</p> <p>オ ライフスタイルと環境</p> <p>カ 生涯の生活設計</p> <p>(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>

イ 「家庭総合」の新旧対照表

- 小・中・高等学校の系統性を踏まえ、「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」、「B 衣食住の生活の科学と文化」「C 持続可能な消費生活・環境」「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」

の四つに整理

- 生涯の生活設計の学習を科目の導入としても学習することで、現在を起点に将来を見通し、ライフスタイルに応じた衣食住の生活に関わる理解や技能の定着はもとより、生活文化の継承・創造の観点から内容を充実するとともに、従前の「生活デザイン」の趣旨を継承し、生活の価値や質を高めつつ、豊かな生活を楽しむことができる実践力を育成することを重視して、改善を図った。

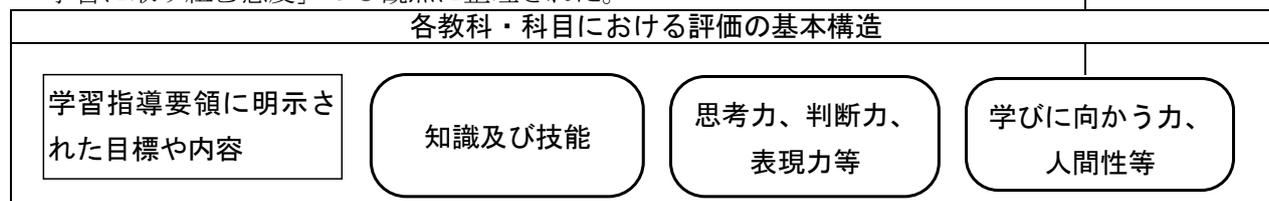
家庭総合 (4単位)	
新	現行
<b>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</b> (1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会 (3) 子供との関わりと保育・福祉 (4) 高齢者との関わりと福祉 (5) 共生社会と福祉	(1) 人の一生と家族・家庭 ア 人の一生と青年期の自立 イ 家族・家庭と社会 (2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉 ア 子どもの発達と保育・福祉 イ 高齢者の生活と福祉 ウ 共生社会における家庭や地域
<b>B 衣食住の生活の科学と文化</b> (1) 食生活の科学と文化 (2) 衣生活の科学と文化 (3) 住生活の科学と文化	(3) 生活における経済の計画と消費 ア 生活における経済の計画 イ 消費行動と意思決定 ウ 消費者の権利と責任 (4) 生活の科学と環境 ア 食生活の科学と文化 イ 衣生活の科学と文化 ウ 住生活の科学と文化
<b>C 持続可能な消費生活・環境</b> (1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境	エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立 (5) 生涯の生活設計 ア 生活資源とその活用 イ ライフスタイルと生活設計
<b>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</b>	(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

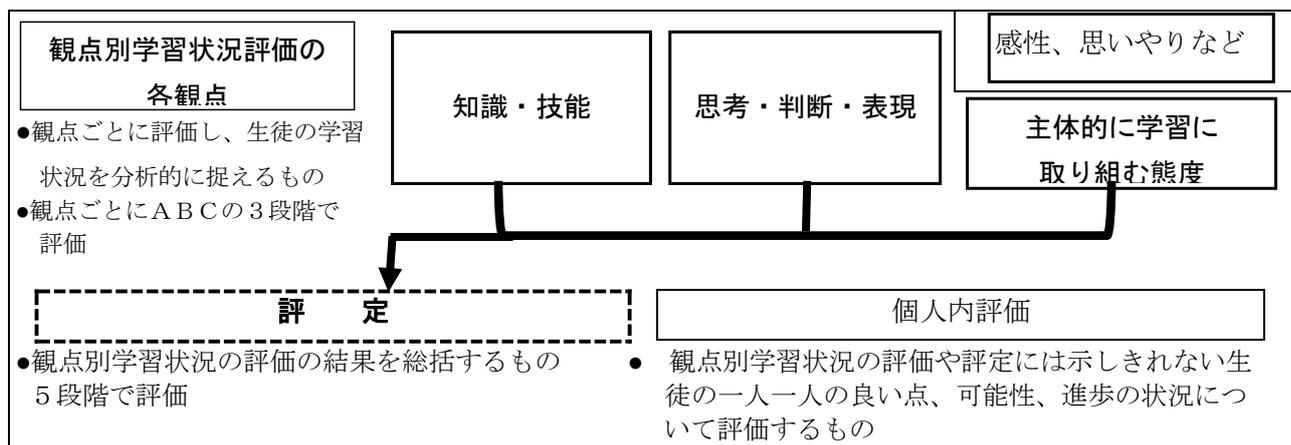
## 5 学習評価について

### (1) 学習評価の基本構造

平成30年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。

「学びに向かう力、人間性等」には  
 ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることができる点と、  
 ②観点別評価や評定がなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。





## (2) 家庭科の評価の観点及び趣旨

### ア 共通教科「家庭」

観 点	趣 旨
知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

### イ 専門教科「家庭」

観 点	趣 旨
知識・技術	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

## 6 指導と評価の一体化のための学習指導

### (1) 背景

学習指導要領の改訂に学習評価については、①平成28年12月21年の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（以下、「答申」という）や②平成31年1月21日の中央教育審議会初等中等教育文科会教育課程部会報告「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（以下、「報告」という）、③平成31年3月29日付け文部科学省初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（以下、「改善等通知」という）、等によりその改善の基本的な考え方が示された。さらに令和3年8月に国立教育政策研究所により『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下「参考資料」という）が作成・公表された。

## (2) 指導と評価の一体化

学習評価とは、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものであり、学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことのできるようにするため、極めて重要である。

これは、学習評価をその時・その後の学習指導の改善に生かすとともに、学校における教育活動全体の改善に結び付けることが大切であるとする「指導と評価の一体化」によるものである。

- ① 教師が学習評価の改善を図ること
- ② 生徒自身が自らの学習を振り返って、次の学習に向かえるようにすること

学習評価は、①・②をいわば、2つの車輪を動かすことによって前に進めるイメージで、「指導と評価の一体化」を図ることは、学習指導要領の趣旨を実現するために必要であり、今回の改訂で明示された「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で重要な役割を担っている。

## 7 共通教科「家庭」における評価規準の作成について

### (1) 目標と「評価の観点及びその趣旨」との対応関係

共通教科「家庭」の指導は、教科及び科目の目標の実現を目指し、適切な単元を設定して指導計画を作成し、授業実践、評価という一連の活動を通して展開される。

したがって、まず、教科の目標を踏まえて、観点別学習状況の評価の対象とするものが整理されている「評価の観点及びその趣旨」がどのように示されているかを確認する必要がある。一方、科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」は示されていないことから、教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえて、各学校等で作成する必要がある。

#### 【高等学校学習指導要領 第2章 第9節 家庭「第1款 目標」】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(1) 知識及び技能に関する目標	(2) 思考力・判断力・表現力等に関する目標	(3) 学びに向かう力、人間性等に関する目標
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う

(高等学校学習指導要領 P181)

#### 【改善等通知 別紙5 各教科等の評価の観点及びその趣旨 <家庭>】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

(改善等通知 別紙5 P4)

**【高等学校学習指導要領 第2章 第9節 家庭「第2款 第1 家庭基礎 1 目標」】**

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技能に関する目標	(2) 思考力・判断力・表現力等に関する目標	(3) 学びに向かう力、人間性等に関する目標
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。



(高等学校学習指導要領 P181)

**【「第2款 第1 家庭基礎」の評価の観点の趣旨(例)】 → 各学校等において作成する**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて <u>理解している</u> とともに、それらに係る技能を <u>身に付けている</u> 。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を <u>身に付けている</u> 。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために <u>実践しようとしている</u> 。

(2) 「内容のまとめり」ごとの評価規準

共通教科「家庭」における「内容のまとめり」

家庭基礎	家庭総合
A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族・家庭 (3) 子供の生活と保育 (4) 高齢期の生活と福祉 (5) 共生社会と福祉	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会 (3) 子供との関わりと保育・福祉 (4) 高齢者との関わりと福祉 (5) 共生社会と福祉
B 衣食住の生活の自立と設計 (1) 食生活と健康 (2) 衣生活と健康 (3) 住生活と住環境	B 衣食住の生活の科学と文化 (1) 食生活の科学と文化 (2) 衣生活の科学と文化 (3) 住生活の科学と文化
C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境	C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境
D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

(平成30年告示高等学校学習指導要領 P181～P183)

※ 「内容のまとめり」とは学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したものである。

<例 家庭基礎 「C 持続可能な消費生活・環境 (2) 消費行動と意思決定」>

① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

C 持続可能な消費生活・環境

次の(1)から(3)までの項目について、持続可能な社会を構築するために実践的・体験的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(2) 消費行動と意思決定

ア 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できること。

イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫すること。

(高等学校学習指導要領 P183)

(実線) → 知識及び技能に関する内容 (波線) → 思考力、判断力、表現力等に関する内容

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

(1) 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」については、学習指導要領に示す「2 内容」の「知識」に関わる事項に示された「～について理解すること」「～について理解を深めること」の記述を当てはめ、それを生徒が「～について理解している」「～について理解を深めている」かどうかの学習状況として表すこととする。
- ・「技能」については、学習指導要領に示す「2 内容」の「技能」に関わる事項に示された「～の技能を身に付けること」「～情報の収集・整理ができること」の記述を当てはめ、それを生徒が「～の技能を身に付けている」「～情報の収集・整理ができる」かどうかの学習状況として表すこととする。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」については、教科及び科目の目標の(2)に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているのかを評価することとする。したがって、学習指導要領に示す「2 内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項について、その文末を科目の評価の観点の趣旨に基づき、「～について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」かどうかの学習状況として表すこととする。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領に示す「2 内容」に「学びに向かう力、人間性等」に関わる事項が示されていないことから、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する場合、「各教科等の評価の観点及びその趣旨」における「主体的に学習に取り組む態度」を基に、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。
- ・その際、教科及び科目の特質として、①粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面）、②自らの学習の調整（①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面）に加え、③実践しようとする態度を含めることに留意し、「様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、～について、課題の解決に主体的に取り組んだり（①）、振り返って改善したり（②）して、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている（③）」かどうかの学習状況として表すこととする。

(2) 学習指導要領の「2 内容」及び「内容のまとまりごとの評価規準（例）」

学習指導要領	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
2 内容	ア 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できること	イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫すること	※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当科目の目標(3)を参考にする。



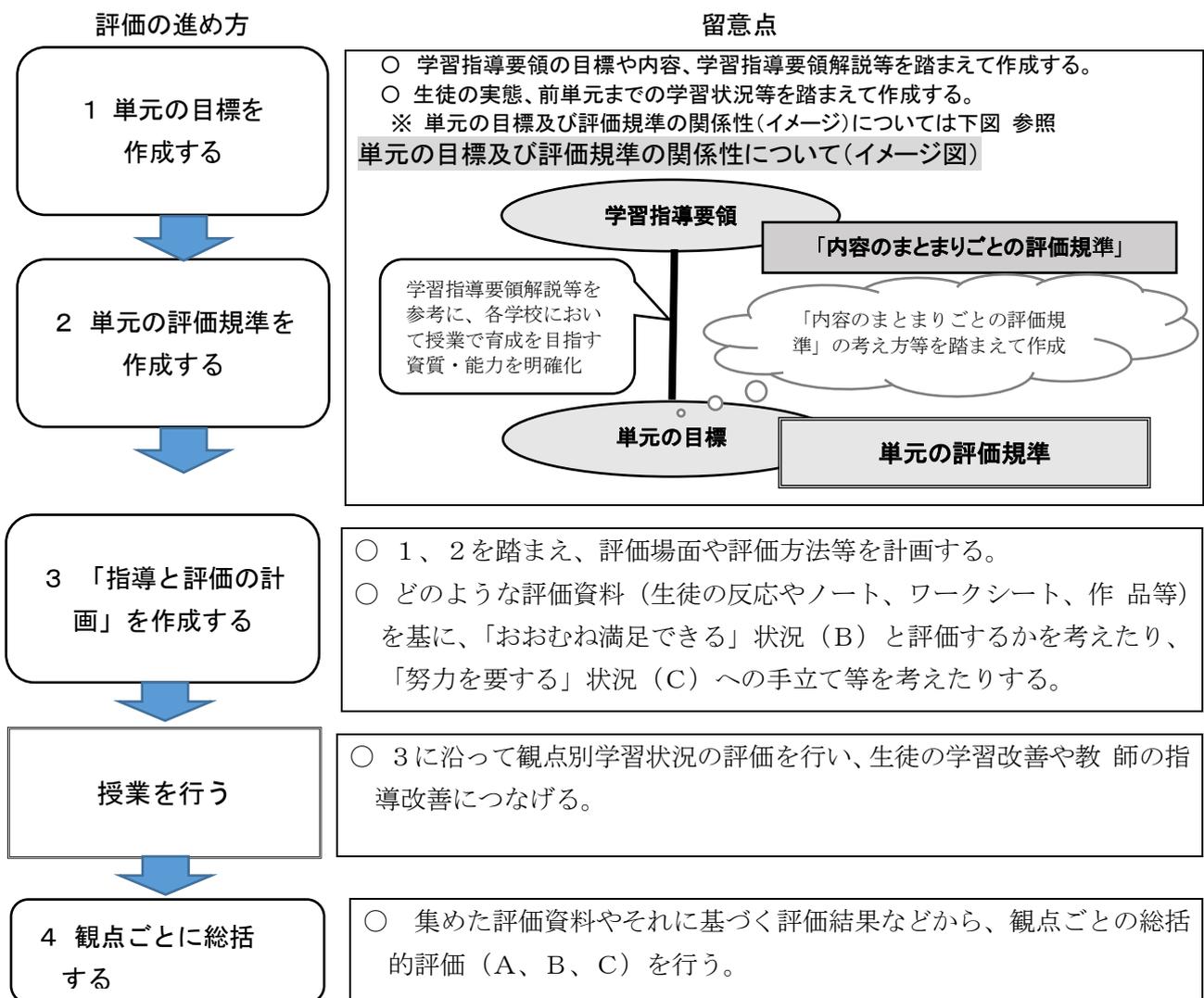
内容の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごと(例)	消費者の権利と責任を自覚し行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。	自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

※ 各学校においては、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、各学校の実態を考慮し、単元の評価規準を作成する。

### (3) 単元における評価規準

#### ① 単元における学習評価の進め方

各科目の単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。



② 単元の評価規準の作成のポイント

単元とは、生徒に指導する際の内容や時間のまとまりを各学校の実態に応じて適切に構成したものである。共通教科「家庭」において単元を構成する際には、「内容のまとまりごと」を小項目ごと等、幾つかに分割して単元とする場合や、「内容のまとまりごと」をそのまま単元とする場合、幾つかの「内容のまとまりごと」を組み合わせて単元とする場合等、様々な場合が考えられる。

内容AからDまでの各項目及び各項目に示す指導事項のとの関連を見極め、相互に有機的な関連を図り、学習が展開されるよう配慮する必要がある。その上で、各学校において、地域の実態、生徒の興味・関心や学習経験を踏まえ、適切に単元を設定することに留意する必要がある。

③ 家庭科における単元の評価規準作成の手順

単元の評価規準を作成する際は、まず、学習指導要領に示された目標並びに単元で指導する指導項目及び指導事項を踏まえて、単元の目標を設定する。次に「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、以下に示すポイントに留意して、単元の評価規準を作成する。

<p>【「知識・技能」のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「知識」については、その文末を「～について理解している」として、評価規準を作成する。</li> <li>・「技能」については、その文末を「身に付けている」、「～に関連する情報を収集・整理している」などとして、評価規準を作成する。</li> </ul>
<p>【「思考・判断・表現」のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「思考・判断・表現」については、その文末を「～について考察している」、「～について工夫している」などとして、評価規準を作成する。</li> </ul>
<p>【「主体的に学習に取り組む態度」のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的に学習に取り組む態度」については、その文末を「～に取り組もうとしている」などとして、評価規準を作成する。</li> </ul>

学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現されたかについて、評価規準に照らして観察し、毎時間の授業で適宜指導を行うことは、育成を目指す資質・能力を生徒に育むためには不可欠である。そのためには、「単元の評価規準」を学習活動に即して具体化する必要がある。その際も、上記のポイントに留意して作成する。

これらを設定することで、目標に照らして、生徒の学習状況を把握することができる。

【「C持続可能な消費生活・環境」の(1)「生活における経済の計画」】

内容評価規準のまとまりごととした(例)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定している。</li> <li>・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について考え、工夫している。</li> <li>・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、実践を評価したり、改善したりしている。</li> <li>・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</li> <li>・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</li> <li>・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活における経済の計画について、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</li> </ul>

↓ ↓ ↓

**単元の評価規準を学習活動に即して具体化**

上記、「C持続可能な消費生活・環境」の(1)「生活における経済の計画」の『内容のまとめりごとの評価規準(例)』を具体化した例』を基に、解説における記述等を参考に学習活動に即して、具体的な評価規準を設定。以下は、単元「成年として自立した経済生活を営むには」を例に示したものです。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元「成年として自立した経済生活を営むには」の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約するときの注意点、契約における未成年と成年の法律上責任の違いについて理解している。</li> <li>・クーリング・オフ制度の他、契約がキャンセルできる場合を理解している。</li> <li>・給料の仕組み、家計の構造(可処分所得、非消費支出)について理解している。</li> <li>・多様な契約の仕組みや使い方を理解している。</li> <li>・国民生活センターや消費生活センターのホームページから、財やサービスに関する正確な情報、被害防止策についての情報を適切に収集・整理できる。</li> <li>・消費者の権利と責任について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、適切な意思決定に基づいて行動することなどについて、問題を見いだして課題を設定している。</li> <li>・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージと関連付けて、課題解決に向けて考え、工夫している。</li> <li>・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、課題解決に向けて考え、工夫している。</li> <li>・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、実践を評価したり、改善したりしている。</li> <li>・自立した消費生活を営むために、家計の管理や計画、適切な意思決定に基づいて行動することなどについての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</li> <li>・生涯を見通した経済の管理や計画の重要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</li> <li>・キャッシュレス化の進行による家計管理や計画の重要性について、課題解決に主体的に取り組む、解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</li> <li>・消費行動における意思決定や契約の重要性について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</li> <li>・自立した消費者として消費者の権利と責任や消費者問題に関心をもち、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上に向けて実践しようとしている。</li> </ul>

## 8 観点別学習状況の評価について

観点別学習状況の評価とは、学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況がどのようなものであるかを観点ごとに分析し、生徒の学習状況を捉えるものである。

新学習指導要領における3観点の評価のそれぞれの考え方は、以下のように示されている。

### 1) 「知識・技能」の評価方法

ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられます。また、生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくこと等も考えられます。

### 2) 「思考・判断・表現」の評価方法

ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。

### 3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法

ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。

9 「指導と評価の計画」と「学習指導案」等の実践事例について【事例1】

科目：「家庭総合」の単元の「指導と評価の計画」

北海道美瑛高等学校の先進事例

単元（題材）名	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (4) 高齢者との関わりと福祉				
単元（題材）の目標	高齢者の心身の特徴、社会環境、高齢者と関わる際に重要な尊厳や自立の視点、関わり方などについて理解し、心身の状況に応じた技能を身に付けるとともに、高齢者の生活を支えるための家族、地域社会の役割の重要性について考察できるようにする。				
評価規準に盛り込むべき事項					
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けている。</li> <li>高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の自立支援を支えるために、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢者との関わりと福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとしている。</li> </ul>	
指導と評価の計画 ((8) 8時間)					
時間	各時間の目標	学習活動	・評価規準 ◇評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<p>人生100年時代の高齢期</p> <p>【ねらい】 高齢期への関心を高め、高齢者が意欲・能力に応じて生き生きと活躍し続けられる「エイジレス社会」の構築の必要性を理解させる。</p>	<p>【単元全体を貫く課題】</p> <p>高校生の自分が高齢者とのどのように関わることができ、自分自身の高齢期をどのように過ごしていきたいと考えるだろうか。</p> <p>・単元全体を貫く課題について自分の考えをまとめ、学習の見通しをもつ。 ・身近な高齢者に対する調べ学習の内容を共有し高齢者の現状を理解するとともにライフイベントに伴う心身の変化について整理する。 ・振り返りシート（1枚のポートフォリオ）に「学習のまとめ」と「今日の振り返り」を記入する。</p>	<p>知識・技能</p>	<p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な高齢者への聞き取り調査などをおして、高齢者の生活の現状についてまとめたり、発表したりすることができる。（思①）</li> </ul> <p>◇ワークシート、行動観察 記録に残す評価</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p>
【振り返りのテーマ】 高齢期を充実させるためにはどのような準備が必要なのかを考えてみよう。					
2・3	<p>年をとると変わること</p> <p>【ねらい】 高齢者の心身の特徴を知り、高齢期の生活を充実させるための個人的・社会的方策を考える。</p>	<p>・ペアワークの疑似体験を通して、高齢者が日常生活でどのようなサポートが必要なのかについて考え、適切な関わり方を身に付ける。 ・DVDの視聴などにより、認知症について理解した上で、個人レベルだけではなく、社会的方策の在り方と連携について考える。 ・「学習のまとめ」と「今日の振り返り」を記入する。</p>	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加齢にともなう心身の変化や特徴を理解し、それを支える具体的な方法や留意すべきことなどについて理解している。（知①）</li> </ul> <p>◇体験実習レポート、定期考査 記録に残す評価</p>	<p>思考・判断・表現</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の加齢にともなう心身の変化と特徴について関心をもとうとしている。（主①）</li> </ul> <p>◇振り返りシート、行動観察 指導に生かす評価</p>
【振り返りのテーマ】 高齢期になると、日常生活でどのような不安が出てくるのかを考えてみよう。					

時間	各時間の目標	学習活動	・評価規準 ◇評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5	<b>高齢期の生活を支える</b> <b>【ねらい】</b> 高齢者の生活課題を把握し、自立を支援するための社会保障、社会福祉制度について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者にとっての生きがいとは何かについて、ダイヤモンドランキング方式で考える。</li> <li>・生徒の居住地域の高齢化の状況や福祉サービスについて調べ、現状を理解する。</li> <li>・「学習のまとめ」と「今日の振り返り」を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢社会の現状と課題、高齢者福祉サービスの概要について理解している。(知②)</li> </ul> ◇ワークシート、定期考査 <u>記録に残す評価</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢期の生活課題を自己の課題としてとらえ、解決策について考えを深め、まとめたり、発表したりしている。(思②)</li> </ul> ◇発表、ワークシート、行動観察 <u>記録に残す評価</u>	【振り返りのテーマ】自身の老後のために何が大切なのかを考えてみよう。
6 7	<b>介護を支える</b> <b>演習にTry! 高齢者の介助を体験してみよう</b> <b>【ねらい】</b> 高齢者の介助を体験し、実践できるようにする。	<体験実習> A 食事の介助体験 (ペアワーク) B 清拭の体験 (ペアワーク) C 寝返りをさせる体験 (グループワーク) <ul style="list-style-type: none"> <li>・A～Cについて、課題解決学習を行いながら、正しい方法を理解する。(体育科と教科間連携)</li> <li>・「学習のまとめ」と「今日の振り返り」を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の状況に応じた介助方法を身に付けることができる。(知③)</li> </ul> ◇ワークシート、行動観察、定期考査 <u>記録に残す評価</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の介助技術を積極的に習得しようとしている。(主②)</li> </ul> ◇行動観察 <u>指導に生かす評価</u>	【振り返りのテーマ】介助をする時の注意点を考えてみよう。
8	<b>これからの高齢社会</b> <b>【ねらい】</b> 高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるようにするために、家族や地域が果たす役割について具体的に考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が一人で外出して駅まで行くときに困ること、不安なことが何かを考える。</li> <li>・これから一人暮らしの高齢者が、安心して暮らすことができるためにサポートできるものは何かを考える。</li> <li>・「学習のまとめ」と「今日の振り返り」を記入する。</li> <li>・単元を貫く課題について、学習の過程を振り返って何がどう変わったのか、自分が考えたことを記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者にとって援助が必要な場面を想定し、具体的に考えようとしている。(思③)</li> </ul> ◇ワークシート、行動観察 <u>指導に生かす評価</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や地域の役割について、社会とのつながりの中で主体的に考え実践しようとしている。(主③)</li> </ul> ◇ワークシート、定期考査、振り返りシート <u>記録に残す評価</u>	【振り返りのテーマ】高校生の自分が高齢者のためにできる役割を考えてみよう。

本時の目標	・評価規準 ◇評価方法		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるようにするために、家族や地域が果たす役割について具体的に考えることができる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者にとって援助が必要な場面を想定し、具体的に考えようとしている。(思③)</li> </ul> ◇ワークシート、行動観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や地域の役割について、社会とのつながりの中で主体的に考え実践しようとしている。(主③)</li> </ul> ◇ワークシート、行動観察
<b>評価方法</b> ◎：単元の評価の総括とする。 → (記録に残す評価) ○：単元の評価の総括の資料としな い。 → (指導に生かす評価)		○ワークシート、行動観察	◎ワークシート、定期考査、振り返りシート
◎「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立てや働きかけ ○「努力を要する」状況に至ることのないよう配慮する点		◎既習事項(視聴覚教材やノート)を思い出させながら記述させる。 ○グループワークに入る前の全体指導において、生徒の通学路(駅から高校までの道)を具体的にイメージさせ、高齢者疑似体験の学習(2/8時間)と連動させながら考察するよう促す。	◎高齢者が抱える不安を解決するために自分ができないかを再考させる。 ○グループワークに入る前の全体指導において、「さわやか福祉財団～すべての人の尊厳を支えるために～地域包括ケアの町イメージ図」と美瑛町の福祉サービスの学習(4/8時間)を振り返らせる。

科目：「家庭総合」の本時の学習指導案

北海道美瑛高等学校 普通科 1年1組 生徒数 30名 (男子 15名・女子 15名)

実施日：令和3年 10月 25日 (月) 3校時目

担当教諭：森本 鈴奈

使用教科書：Creative Living

『家庭総合』で生活をつくろう (大修館書店)

単元名 (題材名)		これからの高齢社会		学習目標		
本時の展開		8時間目	単元	8時間		
指導過程 学習項目	時間	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】	
導入	一斉指導 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の確認</li> <li>ファシリテーター紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習内容の確認と本時の目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を発展させ地域の福祉関係者との連携を図りながら課題を解決する学習であることを確認する。</li> </ul>		
展開	グループ活動 5 5	<p>高齢者が一人で外出して駅まで行くときに困ること、不安なことが何かを考えよう。</p>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>付箋への記入を指示 (各自)</li> <li>↓</li> <li>内容の整理 (グルーピングへ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>困ること、不安なことを付箋に記入する。</li> <li>他者の付箋も参考に、グループ内で内容を整理しその原因となるものを明確化する。(認知症等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な考えに気付くよう班で意見を共有し、ファシリテーター (A B C) にも話し合いが活発化する援助してもらおう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【思】<sup>③</sup></li> <li>高齢者にとって援助が必要な場面を想定し、具体的に考えようとしている。</li> <li>&lt;評価方法&gt;</li> <li>ワークシート</li> <li>行動観察</li> <li>指導に生かす評価</li> </ul>	
発表	10 5 15	<p>これから一人暮らしの高齢者が、安心して暮らすことができるためにサポートできるものは何かを考えよう。</p>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>付箋への記入を指示 (各自)</li> <li>情報の共有</li> <li>発表</li> <li>他教科との連動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括ケアの資料を参考にアイデアを付箋に記入する。</li> <li>グループで記述した内容を共有する。</li> <li>2つの課題解決学習の内容をつなげ、まとめた内容を発表し、全体で共有する。</li> <li>学習内容を他教科と連動させ、キャリア意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民の中の高校生という立場から考えるよう伝える。</li> <li>話し合った内容をまとめて自分のワークシートに記入する。</li> <li>全体の発表を踏まえて、ファシリテーター (AとB) からアドバイスをいただき、より具体的な理解へとつなげる。</li> <li>ファシリテーター (C) から、後輩へのメッセージをいただき、「キャリア探求」の学習と連動させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【主】<sup>③</sup></li> <li>家族や地域の役割について社会とのつながりの中で主体的に考え実践しようとしている。</li> <li>&lt;評価方法&gt;</li> <li>ワークシート</li> <li>定期考査</li> <li>振り返りシート</li> <li>記録に残す評価</li> <li>●C「努力を要する」と判断した生徒への手立て</li> <li>◇既習事項 (視聴覚教材やノート) を思い出させながら記述させる。</li> </ul>	
まとめ	一斉指導 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめ</li> <li>単元のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに[学習のまとめ]と「今日の振り返り」を記入する。</li> <li>【発展】</li> <li>単元を貫く課題について、学習の過程を振り返って何がどう変わったのか、自分が考えたことを記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を振り返り大切だと思ったこと、印象に残ったことをポートフォリオに記入し、自己評価を行う。</li> <li>生涯にわたる生活設計の視点も含めて考えをまとめさせる。</li> </ul>		

# ○テーマ：これからの高齢社会

～高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らすことができる社会の実現に向けて、私たちの役割を考えよう～

- 1 高齢者が一人で外出して駅まで行くときに困ること、不安なことは何だろうか。

→不安の原因となる要因：( )

- 2 これから一人暮らしの高齢者が安心して暮らせるためにサポートできるものは何だろうか。

→キーワード ( )

**【今日の振り返り：大切だと思ったこと、印象に残ったことをまとめよう】**

**【自己評価シート】**

時 間	主な学習内容	学習のまとめ	今日の振り返り (大切なことをまとめよう)
第6時 第7時	介護を支える 演習に Try! 高齢者の 介護をしてみよう		<b>【振り返りのテーマ】</b> 介護するときの注意点を考えてみよう。
第8時	これからの高齢社会		<b>【振り返りのテーマ】</b> 高校生の自分が高齢者のためにできる役割を考えてみよう。

■学習後の【単元全体を貫く課題】に対するあなたの考え

■学習を終えて(自己評価)

生徒の感想と評価～ワークシートの一部（振り返り）

【主体的に学習に取り組む態度③】

家族や地域の役割について社会とのつながりの中で主体的に考え実践しようとしている

「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の具体的な例	<p><b>生徒A</b>  <u>今日の授業を受けて、高齢者と自分たちの距離がいつも近くにあることが大切なのだと気付きました。高齢者と親しくしておくことで、高齢者が困った時、頼りにされるような存在になれたいと思います。</u></p>
-------------------------------	--

\* 具体的にどのように行動を変えていかに言及している場合は、「十分満足できる状況（A）」と判断できる。

「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒の具体的な例	<p><b>生徒B</b>  <u>人間関係を自分からつくるのが大切だし、困っている人がいたら助けられる人になりたいです。祖父や祖母も大変なことがあると思うから、自分からできることを探してやろうと思いました。</u></p>
	<p><b>生徒C</b>  <u>人間関係づくりはとても大切だと思った。困っている人がいたら、声をかけるということは、とても勇気が必要だと思うけど、見かけたらなるべく話かけてあげたい。</u></p>
	<p><b>生徒D</b>  <u>身近で当たり前なことが重要で、そういう重要なことほどアイデアとして出しづらいつ感じました。だから当たり前のことから気遣うことができるみんながすごいと感じました。遠くの大きなものからサポートすることも大切だけれど、身近な小さいことをサポートするのが、よりよい暮らしにするために大切なのでこれから心がけていこうと思った。</u></p>

生徒Dの記述内容は、「主体的に学習に取り組む態度」に係る3つの観点に照らし合わせて評価した際、相互に関わり合う中で、自らの学習の調整の学びの姿（3つの観点の②）が見られるため、最高評価とし、クラスで紹介して自分の記述とどこが違うのかを比較検討させ、次の学びにつなげる工夫を行った。

（「参考資料」P53）

(8) 評価計画とその具体的方法

本事例では、全ての評価方法（評価課題）を1単元内の学習内容で構成した。

【総括的な評価計画】

時 間	第2～8時	第1・第4～5時	第8時
単元の評価規準	知①～③、態③	思①～②	態③
評価方法	定期考査	ワークシート	振り返りシート
評価時期	複数の単元が終了した時点で評価する	単元の学習活動内で評価する	

【単元ごとの観点別学習状況の評価の総括】

評価結果のABCを、A=3点、B=2点、C=1点に置き換えて総括した。

高齢者との関わりと福祉		定期考査	ワークシート	振り返りシート	観点ごとの総括
生徒D の評価 の記録	知識・技能	A (3)			A (3.00)
	思考・判断・表現	A (3)	B (2)	A (3)	A (2.67)
	主体的に学習に取り組む態度			A (3)	A (3.00)

【割合による評価の例】

定期考査で「知識・技能」を評価する場合、「知識・技能」を問う点数配分が60点分のうち、獲得点数が52点であった場合

(正答率)  $52 \div 60 = 86.7 = 87\%$  達成率: 80%以上: A 50%以上 80%未満: B、50%未満: C

生徒Dは、以上の評価分析から「AAA」となり、「評定5」とした。

(「参考資料」P54)

(9) 授業を振り返って～生徒・ファシリテーター・教員の反省

【生徒の反応】

- ・「家族だけではなく、地域の高齢者を支えてあげることが大切だと思った。」「これからボランティア活動に積極的に取り組みたい。」など前向きな意見が多かった。
- ・「福祉施設の方のアドバイスがものすごく的確で、間違っている部分ももっといい意見になるように教えてくれたので、本職の人はすごいと感じた。」など、ファシリテーターとの関わりの中、地域の中で高齢者を支える方のプロの力を感じた生徒たちがいた。
- ・「相手を思いやり、困っている人がいたら全力で助けたいと思った。」など、高齢者だけではなく、あらゆる世代への気遣いの大切さについて意識を向けることができる生徒もいた。
- ・下記の自己評価の結果から、活発にグループワークを行う中で、達成感を感じる事ができた生徒が多くいたことがわかる。

【生徒の自己評価の集計結果】(授業参加生徒 23名)

A	B	C
グループワークで協力して話し合いに参加し、 <b>チームに貢献</b> することができた。 <b>12名→52%</b>	グループワークで協力して話し合いに参加することができた。 <b>10名→43%</b>	グループワークで話し合いに参加することが難しかった。 <b>1名→4%</b>
今の自分が、高齢者をサポートできる具体的な方法を <b>複数</b> 考えることができた。 <b>18名→78%</b>	今の自分が、高齢者をサポートできる具体的な方法を <b>1つ</b> 考えることができた。 <b>5名→22%</b>	今の自分が、高齢者をサポートできる具体的な方法を考 えることができなかった。 <b>0名→0%</b>

【ファシリテーターの反応】

- ・生徒が一生懸命且つ前向きに課題解決学習に取り組む姿に、好感を持ってくださった。
- ・アイディアのまとめ方がさまざまな視点から考えられていてよかったと感じられていた。

【教員の反省】

- ・これまでの授業と比較すると、現実的且つ実効性の高い課題解決型学習にすることができた。
- ・授業内容にボリュームがあり時間に余裕がなかったため、今後はICT(情報通信技術)を積極的に活用しながら効率の良い授業へと発展させていきたい。

10 「指導と評価の計画」と「学習指導案」等の実践事例について【事例2】

科目：「家庭基礎」の単元の「指導と評価の計画」

単元（題材）名		D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動			
単元（題材）の目標		(1) ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 (2) 自己の家庭生活や地域の生活を関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。			
評価規準に盛り込むべき事項					
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。		・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
指導と評価の計画 ((4) 4時間)					
時間	各時間の目標	学習活動	・評価規準 ◇評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動  【ねらい】 ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動について理解することができる。	【単元全体を貫く課題】 よりよい生活・社会を目指し、実際に自己の家庭生活や地域の生活の中で、問題を発見し実践できるようにする。  ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実践方法を知る。 *ホームプロジェクトは、家庭科の学習を踏まえ、よりよい家庭生活を営むため、自己の家庭生活を見直すものであり、長期休業中等の課題となることを告げる。 *学校家庭クラブ活動は、グループや学校単位で協働して、学校や地域生活の充実・向上を目指す活動であることを告げる。 *家庭科の授業の早い段階において伝える。 *課題解決のプロセス (Plan・Do・See) について、教科書等を用いて確認する。  ・「課題発見シート」への記録方法について知る。 *各単元の学びを通して、家庭生活で気になったことなどを「課題発見シート」に記録していくよう伝える。  ・ホームプロジェクトの評価について知る。 *過去の研究発表大会のDVDを視聴させたり、ホームプロジェクトコンクール入選作品について紹介したりするのも一つの方法である	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実践方法について理解している。 ◇ワークシート、行動観察 記録に残す評価		
		【振り返りのテーマ】 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義を踏まえつつ、自分にできることは何かを考えてみよう。			

時間	各時間の目標	学習活動	・評価規準 ◇評価方法			
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
2・3	<p>ホームプロジェクトの計画</p> <p>【ねらい】ホームプロジェクトの課題を設定し、その解決方法について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題発見シート」をグループで共有する。</li> <li>ホームプロジェクトの題目を設定し、目標を明確化する。</li> <li>*内容AからCまでの学習や中学校の内容など、これまでの学習を振り返り、課題を設定するよう助言する。</li> <li>課題を解決するための具体的方法について考える。</li> <li>グループで発表し合う。</li> <li>他者の意見や新たな情報により、自分の計画を検討・改善する。</li> <li>*ICT端末を活用し、課題解決の方法について調べさせる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の家庭生活について課題を設定し、解決方法を考え、実践に向けた計画を工夫している。①</li> <li>◇発表、ワークシート、行動観察</li> <li>記録に残す評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の家庭生活について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。①</li> <li>◇振り返りシート、行動観察</li> <li>指導に生かす評価</li> </ul>	<p>【振り返りのテーマ】課題解決に向けた具体的方策について、目標を明確にして綿密な実践計画を作成することができたか、考えてみよう。</p>
	家庭での実践（長期休業中）			<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。</li> <li>◇ワークシート</li> <li>記録に残す評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の解決に主体的に取り組んだり、一連の活動について振り返って改善したりしている。</li> <li>◇ワークシート</li> <li>記録に残す評価</li> </ul>	
4	<p>ホームプロジェクトの評価と改善</p> <p>【ねらい】ホームプロジェクトの実践について、評価・改善するとともに、よりよい社会の構築に向けて、家庭生活や地域の生活に関する新たな課題を見付け、次の実践に取り組もうとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに発表を行い、互いに評価する。</li> <li>グループ内での意見を踏まえ、実践を評価し、改善する。</li> <li>ホームプロジェクトを学校家庭クラブ活動につなげることを考える。</li> <li>全体を振り返るとともに、家庭生活のさらなる充実・向上のため、新たな課題を見付け、次の実践に向けて考えたことをまとめる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各自の生活課題の解決策や成果について発表するとともに、他者の発表について適切に評価している。</li> <li>◇発表、ワークシート、行動観察</li> <li>記録に残す評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の解決に向けた一連の活動を振り返って、改善しようとしている。</li> <li>家庭生活や地域の生活に関する新たな課題を見付け、次の実践に取り組もうとしている。</li> <li>◇発表、ポートフォリオ、行動観察</li> <li>記録に残す評価</li> </ul>	<p>【振り返りのテーマ】グループ発表の中から家庭クラブ活動で取り組んでみたい実践を選び、どのように展開するかなどを考えてみよう。</p>

科目：「家庭基礎」の本時の学習指導案

単元名		ホームプロジェクトの計画		学習目標	ホームプロジェクトの課題を設定し、その解決方法について考えることができる。	
本時の展開		2、3時間目	単元 4 時間			
指導過程	時間	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準	
学習項目					【観点】	
導入	一斉指導	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の確認</li> <li>前時の学習内容の確認と本時の目標を確認する。</li> </ul>			
			ホームプロジェクトの課題を設定し、その解決方法について考えよう。			

展 開	グループ活動	15	・意見交換	・「課題発見シート」をグループで共有し、互いに意見を交換する。			
		30	・課題の選択	・他者のシートも参考に、自分が最も解決したい課題を選ぶ。	・他者の考えも参考にし、自己の生活を見直すよう助言する。	【思】	【思考・判断・表現①】 ・自己の家庭生活について課題を設定し、解決方法を考え、実践に向けた計画を工夫している。 ＜評価方法＞ ・ワークシート ・行動観察 <u>指導に生かす評価</u>
開	発表	45	・目標の明確化	・「課題掘り下げシート」を用いて目標を明確化する。	・研究を進める上で、課題を把握し、目標を明確に定めることが大切であることを知らせる。 ・ICT端末等を活用して、様々な解決方法の中から、自己の実践に適切な解決方法について検討させる。		
			・実践計画の作成(各自)	・課題を解決するための具体的方法について考え、実践計画を作成する。	・他者の発表や、もらった意見をもとに、実践計画の改善点をまとめさせる。		●C「努力を要する」と判断した生徒への手立て ◇ワークシート返却の際に、友達や教師からのアドバイスを参考にしよう助言するなど、個に応じた指導を工夫し、生徒が主体的に実践できるように支援する
			・情報の共有 ・発表	・ペアやグループで実践計画を発表し合い、よいところ、アドバイス等を付箋に記入する。			
			・実践計画の改善	・ペア（グループ）ワークを踏まえて、実践計画を改善する。			
まとめ	一斉指導	5	・本時のまとめ	・ワークシートに[学習のまとめ]と「今日の振り返り」を記入する。	・本時の学習を振り返り大切だと思ったこと、印象に残ったことをポートフォリオに記入し、自己評価を行う。	【主】	【主体的に学習に取り組む態度①】 ・自己の家庭生活について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ＜評価方法＞ ・ワークシート ・振り返りシート <u>記録に残す評価</u>  ●C「努力を要する」と判断した生徒への手立て ◇教科書等の事例を参考にしよう促したり、具体的に助言したりする

### ワークシート(例)

「課題掘り下げシート」を踏まえて、題目及び計画を完成させよう！

項目		
題目設定の理由	<家庭科での学び>	思考・ 判断・ 表現①
	<我が家の状況>	
	<課題意識>	
計画(予定)		主体的に学習に取り組む態度①
友達からのアドバイス		
教師からのアドバイス		
<題目を設定する上で難しかったこと>		
<実践に向けて考えていること>		

(1) 「思考・判断・表現」の評価規準①の評価について

生徒Nのワークシートの一部

「おおむね満足できる」状況（B）の例

生徒Mのワークシートの一部

「十分満足できる」状況（A）の例

題目設定の理由	<家庭科での学び> ・食べられるのに廃棄されている食品を「食品ロス」という。 ・食品ロスを減らすためには、食品を買いすぎない。料理を作りすぎないなどが大切。	題目設定の理由	<家庭科での学び> ・日本の食品ロス量を国民1人当りに換算すると、毎日五飯茶碗1杯分を捨てていることになると習った。 ・賞味期限については、期限が過ぎたからといってすぐ食べられなくなるわけではないことも知った。
	<我が家の状況> ・買い物や料理は親がしている。 ・冷蔵庫や棚は常に食品でいっぱい、期限が過ぎて捨ててしまうこともある。		<我が家の状況> ・我が家の冷蔵庫は常に食品でいっぱい、知らない間に消費期限が過ぎていて、捨ててしまうことも多い。 ・災害に備えるという理由で、レトルト食品や缶詰などを買いだめして、把握できていない。
	<課題意識> ・我が家の食品ロスがどのくらいか、調べてみたい		<課題意識> ・どうすれば、食品ロスを出さずにすむか、できることに取り組みたい。
計画（予定）	1 実態調査 ・2週間、我が家の食品ロスの状況について調べる。 2 調査結果から問題点を把握する 3 改善方法について考える ・買い物の工夫 ・食品の有効活用 4 反省・評価	計画（予定）	1 実態調査 ・2週間、我が家の食品ロスの状況を調査する 2 調査結果から問題点を把握する 3 改善方法について考える ・冷蔵庫の整理と買い物の工夫 ・ストック食品の管理の工夫 ・献立の工夫 4 反省・評価

(2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準①の評価について

生徒Nのワークシートの一部

「おおむね満足できる」状況（B）の例

生徒Mのワークシートの一部

「十分満足できる」状況（A）の例

<題目を設定する上で難しかったこと> ・最初、自分の家庭生活の中から課題を見つけること 自体が難しかった。 ・グループの人の話を聞くことで、ヒントを得ることができた。	<題目を設定する上で難しかったこと> ・最初、自分の家庭生活の中から課題を見つけること 自体が難しかった。 ・グループの人の話を聞くことで、ヒントを得ることができた。
<実践に向けて考えていること> ・グループの人から、食品ロスにもいろいろあるので はないか、どういう調査をするのかと聞かれたので 調べてみた。家庭系食品ロスの内訳は①過剰除去②食べ残し③直接廃棄の3種類に分けられることが分かった。今回は、特に③について調べてみようと思う。 ・家族の協力も必要なので、ホームプロジェクトについて説明しようと思う。	<実践に向けて考えていること> ・グループの人から、食品ロスにもいろいろあるので はないか、どういう調査をするのかと聞かれたので 調べてみた。家庭系食品ロスの内訳は①過剰除去②食べ残し③直接廃棄の3種類に分けられることが分かった。今回は、特に③について調べてみようと思う。 ・家族の協力も必要なので、ホームプロジェクトについて説明しようと思う。

科目：「家庭基礎」の本時の学習指導案

単元名 ホームプロジェクトの評価と改善 (題材名)	学習目標 ホームプロジェクトの実践について、評価・改善するとともに、よりよい社会の構築に向けて、家庭生活や地域の生活に関する新たな課題を見付け、次の実践に取り組もうとする。	
本時の展開 4時間目 単元 4 時間		
指導過程 学習項目	時間 指導内容	学習活動 指導上の留意点 評価規準 【観点】

導入	指導一斉	5	・学習内容の確認	・本時の目標を確認する			
			ホームプロジェクトの実践について共有し、家庭生活における次の課題や、学校家庭クラブ活動へつなげよう。				
展開	グループ活動  発表	35	・実践発表 (グループ毎)	・ホームプロジェクトの実践をグループ毎に発表し、相互評価をする。	・意見を付箋に記入し、相互に評価させる。 青色付箋→良かった点 黄色付箋→アドバイス 桃色付箋→質問	【思】	・他者の発表内容を適切に評価するとともに、改善点について考察しまとめている。 <評価方法> ・ワークシート ・行動観察 <u>記録に生かす評価</u>
			・自己評価、改善	・ホームプロジェクトの実践を振り返り、実践した結果を評価したり、改善したりする。	・他者の発表や、もらった意見を基に、改善点をまとめさせる。		・グループ発表の中から家庭クラブ活動で取り組んでみたい実践の一つを選び、どのように展開するかなどを考えさせる。
まとめ	一斉指導	10	・まとめと発展	・家庭生活の向上に向けて、改善策を見付け、次の実践に向けて考えたことをまとめる。	・実践活動を振り返り、大切だと思ったこと、印象に残ったことをポートフォリオに記入し、自己評価を行う。	【主】	【主体的に学習に取り組む態度③】・自己の実践活動について、適切に自己評価するとともに、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 <評価方法> ・ポートフォリオ <u>記録に残す評価</u>
							●C「努力を要する」と判断した生徒への手立て ◇他の生徒からの意見等を参考に促したり、具体的に助言したりする。

### (3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準③の評価について

生徒Nのポートフォリオの一部

「おおむね満足できる」状況(B)の例

〈他の人の実践を聞いて思ったこと〉  
 ・〇〇さんは、詳しく調べていてすごいなと思った。  
 ・△△さんのレシピで私も作ってみようと思った。  
 〈友達からの感想〉 省略 〈改善策〉  
 ・これからも冷蔵庫や食品棚の整理を続けようと思う。整理の方法について、消費期限や賞味期限がわかりやすいような工夫をしたい。  
 ・このホームプロジェクトをきっかけに、家族と協力して、我が家の食品ロス削減に向けてできることから取り組んでいきたい。

生徒Nのポートフォリオの一部

「十分満足できる」状況(A)の例

〈他の人の実践を聞いて思ったこと〉  
 ・〇〇さんは、公的な機関に出かけて聞き取りするなどしてすごいと思った。私の家の状況だけでなく、住んでいる地域や日本、他国についても調べてみるのもいいと思った。  
 ・△△さんのように、家族にインタビューしてみるのもおもしろいと思った。  
 〈友達からの感想〉 省略 〈改善策〉  
 ・〇〇さんから、廃棄した食品についてお金に換算してみたら、もったいないという意識がはたらい、家族の協力がもって得られるのではないかとアドバイスをもらった。おもしろそうなのでやってみたい。「今捨ててしまったお金」などとして、冷蔵庫に貼るなどしたら、無駄をなくそうと思えるかも。  
 ・調理する過程での食品ロス削減についても、家族と協力していきたい。  
 ・過剰除去には、調理技術の不足もあると思う。技術を身に付けていきたい。

本事例では、ホームプロジェクトにおける「思考・判断・表現」及び「主体的に取り組む態度」の評価について、具体例を示した。実践後に提出する「実践シート」のみを評価するのではなく、課題の設定や実践に向けた計画を考える場面や、実践後に発表会を行ったりするなど生徒が互いの実践について相互評価する場面の設定など、学習過程で適切に評価を行うことが重要である。

## 【主要参考文献】

- (1) 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」、文部科学省、2018
- (2) 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編」、文部科学省、2018
- (3) 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 家庭編」、文部科学省、2018
- (4) 「小学校学習指導要領（平成29年告示）」、文部科学省、2017
- (5) 「中学校学習指導要領（平成29年告示）」、文部科学省、2017
- (6) 平成28年12月21日の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」
- (7) 平成31年1月21日の中央教育審議会初等中等教育文科会教育課程部会報告「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」
- (8) 平成31年3月29日付け文部科学省初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」
- (9) 「学習評価の在り方ハンドブック高等学校編」文部科学省国立教育政策研究所、2019
- (10) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』、文部科学省国立教育政策研究所、2021
- (11) 『高等学校教育課程 編成・実施の手引』北海道教育庁学校教育局高校教育課、2021、2020、2019